

平成19年度工学部予算重点配分研究テーマに係る研究報告書

(1)研究テーマ:「持続可能な社会実現のための効果的な学生活動についての調査研究」

(2)研究代表者:材料開発工学専攻 講師 鈴木 清

(3)研究成果の概要:

【調査日程】

2007年12月26日～27日に国立オリンピック記念青少年総合センターにて開催された全国大学生環境活動コンテスト(通称:”エココン”)2007に参加し、発表を聴講し、一般参加者として審査に投票した。

【目的】

全国の環境保全活動への学生の取り組みを知り、何が問題なのかを考察し、その問題を解決するための方策を探ること、また学生の活動を効果的にサポートする方法を学んでくることが目的であった。

【問題点1:多くの人への効果的な呼びかけが必要→魅力的な広報方法】

全体として感じた問題点は、一般のほとんどの人が環境保全活動に積極的には協力してくれないことであった。環境保全活動にはゴミ拾いや、正しいゴミの分別方法の指導斡旋など地味なものが多く、一般の方に積極的には活動を行ってもらうことができない。多くの人に環境保全活動を行ってもらうためには、格好良さとか、面白さや、目新しさをアピールして、つまり魅力的な発表や啓発活動を行い、魅力を感じてもらう(魅せる)ことが重要であるということが認識できた。また、その魅力的な発表・広報方法として、携帯電話のサイトを利用するとか、おしゃれさをアピールするとか、ラジオで放送するなど、さまざまな方法が説明され、非常に参考になった。テレビ番組などに、クイズ番組や知的好奇心を満たすことを目的とした番組が、昔からもそうであるが、最近多い。そこで、環境に関するクイズを提供する携帯電話のサイトを作ったグループがグランプリを獲得した。

【問題点2:十分な認識のないままに環境保全活動に参加している→勉強会の必要性】

環境保全を目的にして活動しているものの、その活動が環境に及ぼす影響を十分に考慮してはいない場合があることが認識できた。自称「環境保全活動」による環境破壊(環境負荷)を批判する学生さん達が居た。このような学生さん達が居ることは良いことであり、また、やはり、十分な現状認識・検討と現状調査や科学的(論理的)考察能力が必要であることを認識した。このようなことを学習する場が必要である。学生さん達が自ら「ギャザリング」と称して勉強会や体験講座を行っている。そのようなギャザリングでは、参加した学生さんが環境保全活動の一貫として農作業を体験し、動物を食することの有難さ、命の大事さ、食料の大事さを実感したらしい。このような学習の場を提供することも、大学に求められているのではないだろうか。

勉強会、教育の方法について、子供への環境教育を行っている学生グループからは、自分が思うことを

子供に押し付けたくないが、どうもそのようになってしまい、自己反省してジレンマに陥っているという意見もあった。小生からは、「事実を伝えることを行い、その事実からどのように教えられた子が感じるかはその子の判断に任せれば良い。」と提案しておいた。この問題は、環境保全、道徳の教育に関して重要であり、答えは無いのかもしれないが、このようなことを真剣に悩んで考えている学生が居ることは非常に良いことである。

【学生活動のサポート方法について】

発表会の運営方法も非常に参考になった。例えば、発表会での各グループの発表後の質疑応答や意見交換の時間には、なるべく批判はせず、改善方法を提案することや、今後の発展の可能性を探ることを目指して意見交換がなされていた。良いと思ったことやもっと話を詳しく聞きたいことを指摘し合うことから始まっていた。このような方法で、互いに本音で話しやすい環境が醸し出されていた。ただし、それぞれの学生が理想と思うことに関しては手厳しい議論がなされていた。信頼関係作りと、その信頼に基づいて、厳格な本音のぶつけあいが必要なのだろう。

また、複数のグループの共同活動の可能性を探るということも目的とされていた。さらに、発表直後の質疑応答の時間だけでは、質問したい人やコメントや議論したい人が十分には意見を述べる事が出来ないもので、「YELL シート」と呼ばれる用紙に意見や質問そして可能なら自分の連絡先を書いて、それぞれのグループに渡すために設けられた箱の中に投函していた。このような方式も今後活用できると思われる。

また、エココンスタッフや講演者・審査員の方々と意見交換を行った。そのなかで、複数の大学に参加者が分散している学生グループが、情報伝達や集会が十分に行えずに悩んでいることを知った。また、そのような現状を少しでも改善するために、インターネット上で、各大学での環境保全活動グループの間の交流と意見交換を目指した掲示板(サイト)作りをしているグループがあった。そのグループからは、掲示板の利用(意見の書き込み)を勧められた。このような、直接的な環境保全活動ではなくても、環境保全活動を行うグループのサポートのためのシステムやサポート活動も必要なのだろう。そういえば、2007年度の最優秀賞を獲得した「SUST+ECO」は環境関連情報を発信する雑誌を刊行し、その雑誌に意見を書き込んでもらって回収するということがされていた。情報伝達のサポートである。そういう意味では、エココンを実施したスタッフの方々が、最優秀賞を受賞すべきなのかもしれない。

(4)配分額及び経費の支出額内訳

配分額: 円

支出額: 円

内訳:

(5)その他特記事項

特になし